

子どもの事故予防かみしばい

「どっちがよいこ？」を使用されるみなさまへ

この紙芝居は平成二十三年度 神奈川県「消費者力アップ！県民提案事業」の委託を受け、子どもの事故予防を推進する非営利団体「Safety Kids いずみ」が企画・制作したものです。

「事故」は日本の子どもたちの健康を阻害する大きな要因のひとつです。「不慮の事故」という言葉が使われていますが、よく調べてみると多くの場合「不慮」ではなく、予防が可能であることがわかってきています。しかし事故情報の共有化が十分になされていないことから、子ども自身や保護者・保育者等の知識やスキルを向上させる機会がほとんどないため、同じような事故が繰り返し起こっているというのが実情です。

事故を予防するためには製品や環境の改善改良が重要です。また同時に使用者自身の知識やスキルを向上させることも必要です。生まれたばかりの赤ちゃんも小さな子どももひとり「消費者」ですが、現在乳幼児に対する消費者教育、事故予防教育はほとんど行われておらず、好奇心のままにおとな用の薬を飲んだり、ライターに触ったりして重大な事故が起きています。

この「どっちがよいこ？」は「火」に関する事故をテーマにしたお話と「水」に関する事故をテーマにしたお話、それぞれ三話から成り立っています。子どもたち自身の参画を促すために、「どっちがよいこ？」と問いかける形にしました。子どもたちの年齢や習熟度により「どっちがよいこ？」と問いかけた際の反応もさまざまかと思いますが、それぞれの絵に付けた台本を参考にしていただければ幸いです。

この「どっちがよいこ？」を各ご家庭はじめ、地域の子育て支援の場、保育園・幼稚園等でご活用いただき、事故予防の重要性や予防のための知識を学び、対処のためのスキルを身につけていただきたいと願っています。

謝辞

二枚の絵を並べて「どっちがよいこ？」と問いかける形式と取り上げた事例は、『絵で見て学ぶ安全教育』（田中哲郎氏著 日本小児医事出版社）を参考にさせていただきました。Safety Kids いずみの申し出に対し、参考にすることを快くご了承いただきました日本小児医事出版社様にこの場を借りて御礼申し上げます。

また、この紙芝居の絵および台本につきましては、「子どもの事故予防」の専門の先生方にご指導をいただきました。お忙しい中、絵や台本についてご指導くださいました山中 龍宏先生（緑園こどもクリニック院長）、八藤後 猛先生（日本大学理工学部建築学科准教授）、長谷川 祐子先生（米海軍横須賀司令部消防隊予防課長）に心より感謝申し上げます。